

戦乱・紛争による心的外傷軽減のための支援

ー東ティモールにおける支援者育成のためのワークショップ報告(1)ー

文珠紀久野¹⁾ 秦野環²⁾ 文珠幹夫³⁾ 中村葉子⁴⁾

要 旨

戦乱等で心的外傷を負った人々への継続的支援を実施していくためには、自国民相互による援助体制構築が必要となる。そのための基盤作りとして箱庭療法のワークショップを開催実施した。東ティモールで支援活動に従事している18名が対象である。箱庭療法を理解するための基本となる用語を創り、精神分析の知識と共に箱庭療法を体験的に学んだ。今回のワークショップは、現在対象者が実施している支援活動に十分生かせることが分かった。

キーワード：戦乱 支援者育成 箱庭療法

I. はじめに

戦乱・紛争が生じた国の住民は計り知れないほどの被害を蒙る。身体的損傷はいうまでも無く、劣悪な環境に陥る故の感染をはじめとする健康被害、インフラ等の破壊による生活面の破綻、経済的被害が生じる。それだけでなく、心理面においても、生命の危険にさらされるが故の強い恐怖、レイプや性奴隷化の頻発によって人格が破壊されるような事態に遭遇せざるを得ないこと、これまでの生活が破壊され将来への希望が失われてしまうために、大きな心的外傷を受けることが生じてしまうといわれている。

戦乱・紛争による影響に関する研究は、S.Freudの心的外傷の研究から始まり、主として兵士が対象となって実施されてきた(森茂起)¹⁾。20世紀に生じたベトナム戦争に従軍し、帰国後、アメリカ兵に見いだされたアルコールや薬物依存、種々の神経症の問題などが社会問題となったことから、戦乱が兵士の心理的問題に与える影響に関する研究が行われてきた。しかし、戦乱地となった国の人々はどのような影響が及ん

でいるかに関する研究はほとんど行われていない状況である。

そこで、我々は2002年に独立を果たした東ティモール^{註1}を対象国として、戦乱・紛争による影響を把握するために調査を実施してきた。

親の殺害場面に遭遇した子ども、避難した教会で銃撃に遭った子どもなど、紛争によって孤児となった子どもなど心的外傷を負った子どもを対象に調査を実施した結果、紛争から数年以上経ても、強い悲哀感、空虚感を抱いていることが明らかとなった。(Monju&Monju 2008)²⁾

平和になって10年を超えようとしているが、種々の問題が未解決のままになっているだけでなく、DVや子どもへの虐待(主に性的虐待)が頻発し始めている^{註2}。それらの問題軽減や解消のためには、何らかのケア、心理的援助、サポートが必要である。他国からの支援はもちろんであるが、長期にわたる支援が必要となることを考えると、自国民が自国民で実施できるケア、援助システムを構築することが重要と思われる。

(所 属)

- 1) 山梨県立大学看護学部 看護関連科学領域
- 2) 聖マリア学院大学
- 3) 大阪東ティモール協会
- 4) 聖心侍女会

さらに、東ティモールで支活動を実施している NGO や修道会メンバー^{註3}からは、早急な対応と今すぐ活用できるツールを手に入れたいと渴望し、ワークショップ開催を熱望している状況であった。そこで、自国民相互による援助体制構築のための基盤作りを目指し、ワークショップを企画し開催することとした。

特に心理面の支援を長期にわたり継続して実施するためには、基礎となる知識と技能—特に臨床心理学における知識等が必要となる。ところが、基礎となる臨床心理学の知識などが不十分で皆無である状況で、どのようなツールを導入すべきかを検討した結果、sand play を導入することとした。

sand play は、スイスの M.D.Kalff が C.Jung の分析心理学の考えを元に、子どもから大人まで適応できる表現療法として確立したものである。その後、河合隼雄が 1965 年日本に導入し、非常に普及した心理治療である。Sand play は、「一定容積の砂箱の中に、種々のミニチュア玩具の中から自由に選んだ素材で小世界を構成する自己表現活動である」といわれている。(木村 1985)³⁾ また、sand play の治療的効果は、制作の場を共有し、見守る態度で接することと、制作者が継続して制作すること自体にあるといわれている。そのことから、言語を使用する必要がないこと、ミニチュア玩具(フィギュアと称する)を置くことで制作できる利便性、表現された作品に上手下手が生じないため表現への動機が阻害される怖れが少ないこと、作品自体を解釈・分析することよりも表現された作品を通して制作者の内的世界を共有化することに意味があること、戦乱・紛争による心的外傷をフラッシュバックさせる危険性が低いことを考慮に入れ、sand play のワークショップを開催することとした。

2010 年 10 月に sand play 導入のため、「sand play 体験ワークショップ」を実施した。参加した NGO メンバーや孤児院スタッフ、修道女から、非常に大きな関心と呼ぶこととなった。参加者からは、子どもだけでなく、心的外傷を負

った大人のケアのために sand play が活用したい希望が出されるほどであった。

sand play を学修し、治療効果を得るためには、元になる分析心理学の知識が欠かせない。

そこで、東ティモールで心理援助を試みている援助者に、sand play の学修の機会を提供したワークショップを企画・実施した報告と共に、sand play をより深く理解するために必要な基礎的知識の導入の効果と問題点を明らかにすることが本研究の目的である。

II. ワークショップの企画に至るまで

第 1 回ワークショップ後、2011 年に渡航した際、ワークショップに参加した人たちから sand play をどのようにとらえ、見ればよいかわからないこと、援助者の対応やどのくらい質問や確認をするのかなど様々な質問が寄せられた。理論的な背景についても学びたいという希望が寄せられたので、2012 年に 3 回のワークショップを企画することとした。

その内容は、

1. ワークショップ 1: 精神分析学の概要と sand play 体験制作

目的: 1) sand play を理解するための基礎的知識を学ぶ。無意識発見に至る歴史を知る。無意識を知る手がかりを通して、心の構造、心の機能を学ぶ。S.Freud による発達論、防衛機制、コンプレックスについて知り、sand play に活用できる素地を形成する。
2) sand play を体験することによって、sand play を理解する。

2. ワークショップ 2: 心を理解するための基本と制作者への関わり方について、sand play のデモンストレーション

目的: 1) 心をどのようにすると理解できるかを考える。
2) 「心」のさまざまな表現型を知る。
3) 箱庭表現をよりよく理解できるようになるための基本を学ぶ。

3. ワークショップ 3: sand play をよりよく理解するために、自分の感受性に気づくエクサ

サイズと傾聴エクササイズの実施

- 目的：1) 自分の感受性に気づく。
2) 自分の感受性を高める。

III. 2012年ワークショップ 1

1. 参加者：援助者を養成する目的でのワークショップであるため、2010年に実施した第1回ワークショップに参加し、その後 sand play に興味と関心を持って実践している、あるいは今後実践する希望を持っている人を対象とした。

- ・DVなどの被害女性の支援を実施している団体のスタッフ 10名
 - ・東ティモールの支援を実施している修道会のシスター 2名
 - ・東ティモールのNGOスタッフ 2名
 - ・特別支援学校^{註4}の教員 4名
- 合計 18名

2. 実施状況

- 1) 実施日：2012年9月26日 10時～12時半、13時～16時
- 2) 実施場所：首都 Dili 市内に設けた sand play とインタビューのためのオフィス
- 3) 講義内容：精神分析の歴史、心の構造、心の機能、コンプレックス、S.Freud による発達論

参加者には、英語版の資料(添付資料1)を配布した。

通訳は、中村葉子^{註5}が担当。現地語(Tetun語)には専門用語が無いため、英語を併記した。通訳のため、事前に日本語版資料と英語版資料(添付資料1)を使用

して大まかな内容について説明を加えた。

- 4) sand play の体験：ボランティアを募り、3人の参加者による箱庭制作を実施。実施後、制作された箱庭を見て、相互に感じたことや気づいたことを分かち合った。その後、制作者より表現の意図などを伝えてもらい、最後に臨床心理学を専門にする研究者からコメントした。
- 5) ワorkshopに関する感想：講義と sand play 制作体験に関する感想を自由に記述してもらった。

3. 倫理的配慮

参加者には、ワークショップの目的、内容に関し説明し、後日発表する旨を伝え、了解を得た。個人が特定されることやプライバシーを守ること、参加者に不利益が生じないことを伝え、了解を得た^{註6}。

IV. 講義

1. 専門用語の作成

Tetun 語には、学術的な言葉を表す単語がほとんど存在しない。言葉が存在しないということは、それを表す概念や思想が無く不明確であるといわれている。(S.I.ハヤカワ 1965)⁴⁾

sand play の導入のため、精神分析の基礎的知識が重要であるが、その思想を表す言葉を創る必要があるため、最初に、心の構造を説明するために必要となる「意識、無意識、前意識、エゴ、エス、セルフ、コンプレックス」といった言葉を表す用語を作成した。

作成した日本語、英語、Tetun 語の対照表を表1に示す。

表1 日本語、英語、Tetun語の対照表

日本語	英語	Tetun語
エス	it	ne'e
エゴ(自我)	ego	an-rasik
超自我	super ego	superu an-rasik
意識	consciousness	sentido moris
無意識	unconsciousness	sentido la moris
前意識	preconsciousness	pre sentido la moris
コンプレックス	complex	komplexu
劣等コンプレックス	inferiority complex	inferioridade komplexu
エディプスコンプレックス	oedipus complex	komplexu oedipus
メシアコンプレックス	messiah complex	komplexu maksoin
夢	dream	mehi

心の構造と機能を説明する「意識、前意識、無意識」と「エス、自我、超自我」について、Tetun 語で表現できる言葉を検討し、可能な限りそれらの内包に近い用語を探索した。

参加者にとって初めて耳にする専門用語であるため、理解できるよう図を使うと共に、できるだけ身近な例を出して説明した。

2. 精神分析に関する講義

ワークショップの目的を伝えた後、sand play の基礎となる精神分析の概念を見いだした S.Freud とその先駆者について説明するところから講義を開始した。その後、「心」の構造と機能、無意識の様相、コンプレックスを説明した。さらに、無意識を理解するためには、絵に代表される芸術、体の動き、夢、錯誤行為や失策行為を検討することによって可能となることを例を挙げながら説明した。

心理学に接したことのない参加者であるため、『無意識』の概念理解が非常に困難であった。心が多層構造になっていること、今自分が感じたり、考えたり、行動しているときに働く心以外に、自分ではコントロールすらできない層があることを複数の例を挙げて説明を行った。

V. sand play 制作体験

1. 制作方法

sand play を理解するために、まず自分が箱庭を制作する経験を有することが重要である。(岡田康信 2002)⁵⁾ 参加者の中で sand play 体験を経験していない3人が1人ずつ箱庭を制作した。そのときは、臨床心理学の専門家である研究者がセラピスト役を取り、通訳者が同席する中で実施した。他の参加者は別室で待っていることとした。

2. 制作者

制作者は、ボランティアを3名募った。sand play への関心が高いためか、ワークショップ参加者の半数以上の方が制作を希望したが、今回は sand play 未経験者を優先することとした。

3. 制作された sand play

制作された sand play は、写真1~3に示す。制

作時間、テーマは表2に示す。

sand play 制作体験ははじめてではあったが、3人もためらいなくフィギュアを取って開始した。制作時間は非常に短く、テーマが明確である。



写真1 Aさんの箱庭



写真2 Bさんの箱庭



写真3 Cさんの箱庭

表2 3人のsand play

制作者	Sex	Age	要した時間	テーマ
A	Female	45	2分	悪いことをした子どもが警察に連れて行かれるところ
B	Female	27	10分	今の我々の生活の現状
C	Female	27	10分	貧しい人と豊かな人

4. 制作後の分かち合い

Sand play 作品ができあがった後、ワークショップ参加者は作られた箱庭作品を観て、作品に対して感じた印象や感想をメモした。それらを相互に分かち合った後、制作者からどのような内容のものを作ったかを簡単に伝えてもらった。(表3)

参加者による感想は、Aさんの箱庭に対して、「柵がない」、Bさんの箱庭に対して、「対になってフィギュアが置かれている」、「刃物を持っている人がいる」、「泣いている子どもが2人いる」、Cさんの箱庭に対して、「2つの部分に分かれている」、「柵が道をふさいでいる」、といった箱庭に置かれたフィギュアへの言及がみられる。また、全体の印象「怖く暗い感じがする、悲しい感じを受ける、きれいな印象を受ける」などを伝える人もいた。

Aさんの箱庭に対して、「警察の前にいる子どもは放置されている。子どもと大人とのコミュニケーションがうまくいっていない」、Bさんの箱庭に対して「泣いている子どもが二人居て、誰も助けようとしていない。共同体のなかにコミュニケーションが無い感じがした。東ティモールが自由になったせいで、1人1人は好き勝手なことをしている様子を表している」、Cさんの箱庭に対して、「1人1人勝手なことをして、関係が無い。柵が活動を遮って、自由が無い感じがする。誰かを攻撃しているように見える」といったように解釈めいたことを述べる人もいた。

制作者からは、制作した意図、内容について説明があった。制作者の1人は、箱庭を制作することによって、自己理解ができたと述べている。

sand play 制作を通して、箱庭作品の扱い方、見方、制作者への関わり方、質問を多用せず制作者からの自発的な言及を待つことの重要性を学修できたと思われる。

VI. ワークショップ実施における効果と問題点

1. 学習意欲の喚起

「たくさんのことを学んだ」、「すばらしく有意義だった」、「今日のワークショップはすべてよかった」、「意識と無意識についてよく理解できたのでよかった」とワークショップ自体に満足を得た感想がみられた。

「個性、意識、無意識、超自我、心の発達についてもっと理解できるようになりたい」、「もっと多くの知識を得たい」、「心理学的な領域で仕事をしているので、精神分析の知識をもっと理解したい」、「トラウマを抱えている人をケアするために、心についてもっと知りたい」、「sand play が心理治療にどのように効果があるかもっと知りたい」とあるように、精神分析の知識、人の心、sand play への学習意欲が喚起されたと思われる。

2. sand play と精神分析の関連理解の促進

今回のワークショップの目的の一つは、sand play 導入に当たりその基礎となる精神分析理論の概要を伝えることであった。この点に関しては、「理論と実践を通して、sand play と精神分析の関連が分かった」、「sand play の解釈のために、意識と無意識の知識があること」、「sand play を制作した人の生活が箱庭に表現されていることを理解した」と表現された感想から、おおよそ今回のワークショップの目的は達成できたのではないと思われる。

3. 精神分析理解の困難性

精神分析が成立した歴史、心の構造と機能、心の発達、コンプレックスについて、約2時間の講義で取り扱った。

参加者の感想には、ほとんどが精神分析の用語が記述されていた。無意識の概念に接したことのインパクトは非常に大きかったようである。

「行動が無意識から発していることを学んだ」、「人々の心が日常生活の行いに反映していることを学んだ」、「個性、意識、無意識、超自我、心の発達を学んだ」、「ヨーロッパからの心理分析、心に関する知識を学んだ」とあるように、精神分析の概要を理解できたという参加者は4人であった。

しかし、「どのようにして無意識が創られるの

か」、「意識や結婚した人の話を聴いた」、「2～4歳の子どもが性について知ることができるのか」の感想にみられるように、無意識の概念そのものの理解ができなかった人、エディプス・コンプレックスを誤解、S.Freudの心の発達を理解でき

なかった人もみられた。「私は精神分析についてもっと理解する必要がある。でも、難しい」とあるように、講義内容を理解することはかなり困難だった様子がかがえる。

表3 sand play に対する感想

名前	参加者がsand playを観た感想		制作者のコメント
	印象	感想	
A	少しこわい	・警官は子どもとどのようにコミュニケーションして良いかわからない様子	・子どもが問題を起こしたので、警察官が警察に連れて行くところを作った。
	静かできれい	・子どもはおいてきぼりにされている	
	とてもきれい	・子どもが放置されている	
	なんとなく不安	・大人が遠くにいて、何が起きても子どもを助けにいけない ・柵がないので誰でも自由に入出でき、不安	
B	とてもきれい	・対になってフィギュアが置かれている理由が知りたい	・DVがひどいので両親を別々に置いた。両親は相変わらずかみ合わず、どうしてよいか分からず困っている。 ・何もできなくて悩んでいるひとがいる。 ・今の時代は、自分は自分と勝手に行動し、かつては人々は信仰が深く教会が重要だったが、今はそうでなくなっている現実を表した。 ・遠くに幸せな家族も居るが、日陰にある家族もあるのでそれを表した。 ・星は暗いところにあるので、暗いことを表した。
	心配そうな感じがする	・子どもが遊んでいるが場所が狭い	
	近づけない	・家があるのに人は外にでて心配そうである	
		・祈っている人も居るのに、教会は空になっている	
		・刃物を持っている人は何をしようとしているか知りたい	
		・泣いている子どもが二人居て、誰も助けようとしていない	
		・教会に人が近づけない感じがする	
		・共同体の中にコミュニケーションが無い感じがした ・東ティモールが自由になったせいで、1人1人は好き勝手なことをしている様子を表している	
C	二つの部分に分かれている	・二つの部分に分かれ、一つは貧しい人、もう一つは富んで居る人で、お互いに交流が無い	・二つの家族を作った。 ・貧しい人と豊かな人がいる。貧しい人は学校に行かない子どもの将来を表し、豊かな人は学校が好きで、学校に行く子どもの将来を表した。 ・豊かな人にとっては、誰も来てほしくないのだから柵をつくるのが習慣になっている。 ・学校に行こうとしている子どもが私自身を表している。 ・バットを持った人は、問題を起こす子どもを表し、殴ろうとしている子どもである。
	二つの部分に交流がない	・1人1人勝手なことをして、関係が無い	
	関係が無い感じがする	・柵が活動を遮って、自由が無い感じがする	
	悲しそう	・柵が道をふさいでいるのが気になる	
	自由が無い	・誰かを攻撃しているように見える	
	とてもきれい		
	全体として穏やかな感じ		

4. sand play 実施上の問題

sand play への関心は高まったと思われるが、sand play を実施するためには、用具と多種多様のフィギュアが必要となる。その点に関して、障害児の教育を実施している教育者から、「私の学校の生徒には sand play を使った支援が必要だと思う。そのための sand play の道具がほしい」とあった。sand play の有用性から道具一式の必要性を強く要望している。

この点に関して、現地で調達できる方法を今後検討する必要があると思われる。

5. 専門用語理解における困難性

東ティモールでは、補助言語として英語が使われているとのことであったが、参加者は英語を理解することができなかった。そのため、事前に準備した資料は役に立たず、Tetun 語で板書しながら説明することとした。さらに、Tetun 語には心理学の用語を表現する単語が非常に少ないことから、説明時にはできるだけ元の意味を保つような内容を表す単語を使用せざるを得なかった。

そのことから、今回のワークショップの内容理解に困難さをもたらしたのではないかと思われる。

<謝辞>

ワークショップに参加し、快く本研究への協力に同意了解して下さった 18 人の皆様方に感謝申し上げます。

本研究は、科研費（基盤研究（B）（海外学術）23402058）による調査研究の一部である。

<引用・参考文献>

- 1) 森茂起:トラウマの発見, 講談社選書メチエ, 2005.
- 2) Monju,K.& Monju,M.: Impact of war on children: a survey of war orphans in East Timor, World Association of Infant Mental Health,2008.
- 3) 木村晴子:箱庭療法—基礎的研究と実践 創元社 1985.
- 4) ハヤカワ,S.I.:思考と行動における言語(第二版), 岩波書店, 1965.

- 5) 岡田康信:箱庭療法の訓練,箱庭療法の本質と周辺(箱庭療法シリーズⅡ),現代のエスプリ,別冊,至文堂,98-112,2002.

註1 東ティモールは、16世紀にポルトガルによって植民地化され、1942年～1945年の3年半日本軍によって占領されていた。1945年から再度ポルトガルの植民地となったが、1975年ポルトガルからの独立を果たそうとした矢先、インドネシアが侵攻し占拠された。独立を目指していた多くの人々はゲリラ活動を展開していった。ゲリラであることが判明すると酷い拷問、女性へのレイプ、突然の殺害が多数行われた。1978年～1979年には食料が断たれ饑餓のため多数の子どもを含む人々が亡くなったといわれている。1999年の住民投票でインドネシアからの支配から脱することが決まったとたん、インドネシア軍と民兵による殺戮、放火、破壊が始まり、全土の約80%以上が破壊されたといわれている。その後、国連による他国籍軍の導入により一応の平和がもたらされた。

註2 東ティモールの首都 Dili 市内に「DVは犯罪」と明記されたポスターがあちこちに貼られている。

註3 東ティモールは、国民の約95%はカトリックであり、修道会が様々な支援を行っている。特に女子修道会は孤児院を運営し、戦乱孤児の世話をしていることから、心的外傷を負った孤児たちへの世話やケアに関して苦慮している現状がある。

註4 盲、聾、知的障害の生徒を対象としている東ティモール唯一の特別支援学校である。

註5 中村葉子は、東ティモールの独立のために長年貢献してきたシスターである。現在は東ティモールに住まいを置き、東ティモール再建のために尽力している。東ティモールでの公用語は、ポルトガル語、インドネシア語、Tetun 語であり、補助言語として英語が使用されている。中村葉子は、それら4つの言語に非常に堪能であることから、今回のワークショップにおいて通訳の任を負った。

註6 調査実施に当たって、現地東ティモール連絡協議会(NGO)が組織する倫理審査委員会の許可を得た。参加者に研究目的、方法、内容について説明を行い、後日論文等での発表を予定していることを伝え、その上で、個人が特定できないようにプライバシーを守ることを断ったりしても不利益が生じないことを伝えた。しかし、どの参加者も、自分の写真を掲載すること、本名を出すことを願っていた。それは、東ティモールで生じた悲劇を世界に発信してほしいという強い願いがあるからとのことであった。

資料 1

Workshop: To learn psychoanalysis

1. The history of psychoanalysis

a. S.Freud and people before him

i. Preceding things for discovery of unconscious

A.Mesmer

Animal magnetism

J.M. Charcot (a medical Dr. at Pitie-Salpetriere Hospital in Paris)

Hypnosis

He suggested that a hysteria symptom is caused psychologically

J.Breuer (a medical doctor at Vienna, a general practitioner in private practice)

He was a senior of Freud and supported Freud economically

ii. Discovery of unconscious

It is discovered by S.Freud (1856-1939)

<Life of S.Freud>

May 6, 1856 He was born in Freiberg of Moravia

* Chronological history

1885 (29 years old) He studied abroad, to Dr. Charcot, at Pitie-Salpetriere Hospital in Paris

1886 (30 years old) He was married with Malta. He presented, "Hysteria of the man"

- He found that Hysteria is not neurological disease, yet psychological disease

1887(31 years old) He met Dr. Wilhelm Fliess, otolaryngologist

1889(33 years old) He met Mrs. Frau-Emmy-v. N who gave a start for free association

He started being aware of "unconscious" since this period of time

- He thought that Hysteria was a reaction to psychological trauma, and would be disappeared if psychological trauma and feeling is gotten rid of from unconscious

1892(36 years old) forehead method (Frl. Elisabeth v. R)

- In his theory, feelings and desire become the unconsciousness by suppression. If a person tries to bring the feeling and desire up to his/her conscious, anxious, uneasiness, unpleasantness and pain occur. Because of that, the treatment would be disturbed. Therefore, greed, conflict and suppression of sexual instinct is cause of Hysteria.

1893(37 years old) He exchanged letters with Dr. Wilhelm Fliess,

1895(39 years old) He was co-author, "Studien über Hysterie", with J.Breuer (Anna O.)

1896(40 years old) He began to utilize, "psychoanalysis" in this treatment. His anxious and neurosis got worse since his father died in October

1897(41 years old) He dreamed his naked mother (he noticed his desire for incest. He started his self-analysis, and discovered his Oedipus complex in his inner self

- He started to talk about his dreams and get insight about unconscious, which led to necessity of training analysis
- An infant sexual desire theory: A human being has a desire toward the sexual object from his/her infancy

1899(43 years old) "Traumdeutung (dream interpretation)" was published. Cured tainphobia

1900(44 years old) He was independent from Dr. Wilhelm Fliess. (treatment resistance, resistance of self-analysis)

1908(52 years old) The Vienna psychoanalysis association was established.

The first international psychoanalysis meeting was held.

- He discovered Oedipus complex (mouse man)

1910(54 years old) The international psychoanalysis association was established, and Jung a chairperson of the association

1917(61 years old) He was published, "Introduction to Psychoanalysis."

1920(64 years old) Life and Death instinct

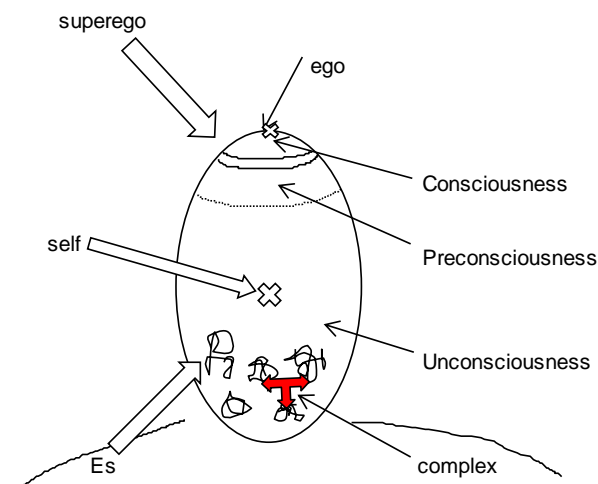
1922(65 years old) Third daughter Anna becomes a member of the Vienna psychoanalysis association

He presented, "Structure of Mind" (id, ego, superego)

1938(82years old) He defected to London

1939(83years old) He died on September 23th

2. Structure of heart/mind



Consciousness- is constructed by direct experiences

Pre-Consciousness- it is likely unconsciousness, but a state of preparation to rouse consciousness

Unconsciousness-is every mental phenomenon, which is not aware of

- a. clue, which help to recognize the unconsciousness
- iii. Projected Contents
 - ex. Projective techniques- Baumtest, Rorschach test
- iv. trial and error, parapraxis, slip of the tongue, fail to listen, misunderstanding, left things, fail to read, forget things at the moment, habitual behaviors, sucking fingers, Shaking leg syndrome, onychophagia, unconscious hand movement

These behaviors indicates outcome of unconscious desire, feelings and compromised feelings

- v. Dream analysis
 - Disguise of the unconscious desire and feelings. Sufficiency of the unconscious desire
- vi. Free association
- b. Things exists in unconscious state
 - i. Complex (discovered by C. Jung)
 - The aggregate of memory and idea, which related with some sort of feeling, in unconsciousness
 - 1) Oedipus complex
 - 2) Inferiority complex
 - 3) Messiah complex
 - 4) Ajase complex
 - ii. Libido
 - Lump of the energy with a sexual nuance
 - iii. Instinct
 - Life and death instinct
- c. Personal unconsciousness and collective unconsciousness

3. Function of heart/mind

es – the area is in unconsciousness, follows the pleasure principle (impulsive and instantly satisfaction)

ego – the area meditates outside and es, follows the reality principle

superego – the area is formed by discipline and interaction with a society in one`s childhood. Must not do (prohibition of good-mind). Must do (pursuit ideal).

4. Psychodynamics

Behaviors manifests the surface of consciousness is occurred by psychodynamic, which includes unconsciousness. Ego controls behaviors in reality.

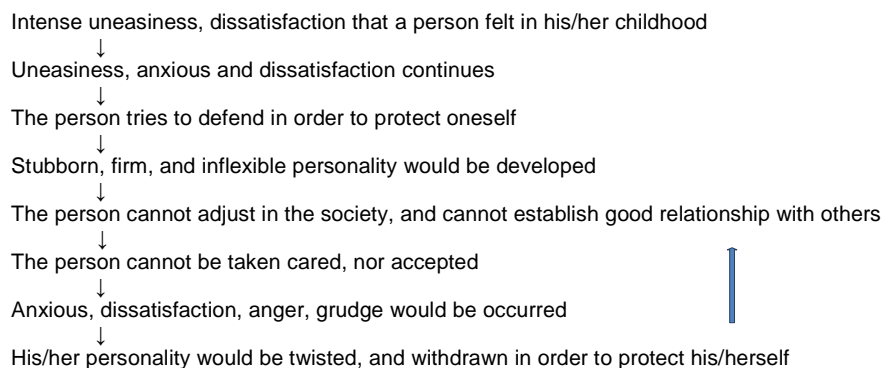
When we consider why the behavior and reaction occurs, and what makes it, we take account of this previous idea.

5. Defense mechanism

People try not to be aware of unpleasant and uncomfortable feeling or something they do not like.

People tend to use different kind of defense mechanisms in order to adjust the real world by preventing occurrence of anxious in real life, instinct anxiety, and anxious from moral aspect.

This sort of defense mechanism is carried out reflectively



a. Various defense

- ①Thought Suppression ②Compensation ③Sublimation ④Reaction formation ⑤Projection (projection)
- ⑥Substitution/Displacement ⑦Transference ⑧Conversion ⑨Identification ⑩Distortion ⑪Rationalization
- ⑫Intellectualization ⑬Self-punishment ⑭Denial ⑮Isolation ⑯Regression ⑰Dissociation/splitting

Help for the Alleviation of Psychological Trauma
Resulting from Armed Conflict:
Workshop for the Maturation of Assistants who
Provide Social Support in East Timor

MONJU Kikuno, HATANO Tamaki, MONJU Mikio, NAKAMURA Yoko

key words: armed conflict, maturation of assistants, sand play